

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■ 実施日 2019年3月11日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

| 項目コード | 検査項目 | 検体量(mL) | 容器 | 保存 | 所要日数 | 実施料判断料 | 検査方法 | 基準値(単位) | 備考 |
|--------|------------------|--------------------|---------|----|------|---------|------|---------|---|
| 5880 2 | MPL・CALR 遺伝子変異解析 | 血液 5.0 (EDTA 2Na加) | PN5 (C) | 冷蔵 | 4~8 | 2100 ※2 | PCR | 変異 検出せず | <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">重凍</div> 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 本検査は、MPL遺伝子(W515L、W515K)、CALR遺伝子(type I、type II)の変異解析を目的としております。 本検査が検出対象としていない変異がある場合、PCR反応およびハイブリダイス反応に影響を及ぼす場合があります。そのため、このような変異を有する検体では正確な判定結果が得られない可能性があります。 |

&1

※2：血液学的検査判断料

●MPL・CALR遺伝子変異解析

骨髄増殖性腫瘍（MPN）である本態性血小板血症（ET）・原発性骨髄線維症（PMF）にみられるMPL遺伝子およびCALR遺伝子の変異を同時に解析する検査です。

古典的MPN*では、JAK2遺伝子、MPL遺伝子、CALR遺伝子などの遺伝子変異がMPN発症過程においてドライバー変異として働くと考えられております。

真性多血症（PV）ではJAK2遺伝子、本態性血小板血症（ET）と原発性骨髄線維症（PMF）ではJAK2遺伝子、MPL遺伝子、CALR遺伝子の遺伝子変異が検出されることが知られております。

本検査は、骨髄増殖性腫瘍（MPN）である本態性血小板血症（ET）、原発性骨髄線維症（PMF）に認められるMPL遺伝子（W515L、W515K）、CALR遺伝子（type I、type II）の変異を同時に解析する検査として有用です。

*古典的MPN：真性多血症（PV）、本態性血小板血症（ET）、原発性骨髄線維症（PMF）

▼疾患との関連

骨髄増殖性腫瘍（MPN）

▼関連する主な検査項目

JAK2 V617F遺伝子変異解析

▼検査要項

| | |
|----------|--|
| 検査項目名 | MPL・CALR遺伝子変異解析 |
| 項目コードNo. | 5880 2 |
| 検体量 | 血液 5.0 mL |
| 容器 | PN5 (C) EDTA-2Na入り |
| 保存方法 | 冷蔵保存してください |
| 所要日数 | 4～8日 |
| 検査方法 | PCR |
| 基準値 | 変異検出せず |
| 検査実施料 | 2100点（「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査） |
| 判断料 | 125点（血液学的検査判断料） |
| 備考 | <p>重凍</p> <p>凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 本検査は、MPL遺伝子（W515L、W515K）、CALR遺伝子（type I、type II）の変異解析を目的としております。 本検査が検出対象としていない変異がある場合、PCR反応およびハイブリダイズ反応に影響を及ぼす場合があります。そのため、このような変異を有する検体では正確な判定結果が得られない可能性があります。</p> <p style="text-align: right;">&1</p> |

●参考文献

Tsunedomi R, et al : Cancer Science 108(7):1504～1509, 2017. (検査方法参考文献)

金倉 譲 編：Ph陰性骨髄増殖性腫瘍～分子病態と治療の最前線～初版.医薬ジャーナル, 2016. (臨床的意義参考文献)